

○中山知倫¹⁾、渡辺彰英¹⁾、田中 寛¹⁾、後藤田
遼介¹⁾、山崎行人¹⁾、外園千恵¹⁾、中川正也²⁾、
小泉範子²⁾、木下 茂³⁾

1) 京都府立医科大学

2) 同志社大学

3) 京都府立医科大学感覚器未来医療学

【目的】涙道内視鏡併用涙管チューブ挿入術の術後成績を検討すること。

【対象と方法】当院において2013年3月20日から2016年3月18日までの涙道内視鏡を併用した涙管チューブ挿入症例のうち、挿入後2か月で抜去して抜去後6か月まで経過観察を行うことができた14例20側(男性3例、女性17例、平均年齢 74.0 ± 10.6 歳)について、挿入時の閉塞部位、再閉塞の有無について検討した。

【結果】閉塞部位は鼻涙管14側でこのうち慢性涙囊炎3側、そして涙小管閉塞4側、鼻涙管+涙小管閉塞2側であった。再閉塞した症例は認めなかった。

【結論】涙道内視鏡併用下では再閉塞した症例はなかった。

・セッション5

17. 屈折矯正手術後眼におけるフェムトセカンドレーザー白内障手術

○稗田 牧¹⁾、木下 茂²⁾、外園千恵¹⁾、脇舩耕一³⁾、山村 陽³⁾、山崎俊秀³⁾

1) 京都府立医科大学

2) 京都府立医科大学感覚器未来医療学

3) パプテスト眼科山崎クリニック(京都市)

【目的】エキシマレーザー角膜屈折矯正手術後眼に対するフェムトセカンドレーザー白内障手術(FLACS)の成績を検討する。

【対象および方法】対象は角膜屈折矯正手術後にパプテスト眼科山崎クリニックでFLACSを施行した6例9眼(6眼が多焦点眼内レンズ)であ

る。LenSx[®](Alcon)を用い、水晶体切開、水晶体分割、角膜創切開を行った。

【結果】9眼中7眼で裸眼視力1.0となり、矯正精度 $\pm 1.00D$ 以内は100%であった。多焦点眼内レンズを挿入した症例は眼鏡装用不要となった。

【結論】FLACSの屈折矯正精度は良好である。屈折矯正手術後の多焦点眼内レンズ挿入術など精度を要する場合には有効な術式と考えられた。

18. 非外傷性角膜穿孔に対する治療についての検討

○中井允子、細谷友雅、神野早苗、三村 治、五味 文

兵庫医科大学

非外傷性角膜穿孔症例28例30眼(男性19例、女性9例、平均年齢70.0歳)に対し、原因、治療、視力予後、合併症について後ろ向きに検討した。

角膜穿孔の原因は感染17眼、非感染12眼、不明1眼。治療内訳は層状角膜移植(LKP)15眼、全層角膜移植(PKP)7眼、眼球摘出2眼、保存加療のみ6眼であった。羊膜移植は4眼に施行したが全例追加手術を要した。6眼で視力改善を認め、すべてPKP施行例であった。合併症は14眼に生じ、移植片感染、拒絶反応、眼圧上昇で、全例で鎮静化が得られた。

非外傷性角膜穿孔に対するLKPやPKPは創閉鎖に有効な治療手段と考えられ、PKPでは良好な視力改善が得られた。

19. 先端医療センター眼科における海外ブレイカドナーを用いたDSAEKの治療成績
中村隆宏¹⁾³⁾⁴⁾、外園千恵²⁾³⁾⁴⁾、木下 茂¹⁾³⁾、
平見恭彦³⁾⁴⁾、藤原雅史³⁾⁴⁾、高木誠二³⁾⁴⁾、栗本康夫³⁾⁴⁾

1) 京都府立医科大学感覚器未来医療学

2) 京都府立医科大学